

2019年度第2四半期決算説明会

(第2四半期決算補足説明資料)

株式会社キッツ

【注意事項】

本資料に記載されている当社及び連結子会社の計画、戦略及び業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。

目 次

1 2019年度第2四半期決算の概要

2 2019年度計画

3 最近のトピックス

1 2019年度第2四半期決算の概要

2 2019年度計画

3 最近のトピックス

2019年度第2四半期 業績

単位(百万円)

	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q計画	2019年度 2Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	67,781	65,000	62,199	▲5,582	▲8.2%	▲2,800	▲4.3%
内、バルブ事業	53,844	51,500	49,760	▲4,083	▲7.6%	▲1,739	▲3.4%
内、伸銅品事業	12,237	11,800	10,737	▲1,500	▲12.3%	▲1,062	▲9.0%
営業利益 (率)	5,813 (8.6%)	3,600 (5.5%)	2,816 (4.5%)	▲2,997	▲51.6%	▲783	▲21.8%
内、バルブ事業	7,306	5,400	4,524	▲2,781	▲38.1%	▲875	▲16.2%
内、伸銅品事業	191	200	72	▲119	▲62.1%	▲127	▲63.7%
経常利益	5,788	3,400	2,733	▲3,055	▲52.8%	▲666	▲19.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,926	2,200	2,033	▲1,893	▲48.2%	▲166	▲7.6%
ドル: 対円	108.52	110.00	109.98				
ユーロ: 対円	130.66	130.00	124.07				
電気銅建値: 円/トン	760,000	750,000	692,000				

注) 売上高及び営業利益は、バルブ事業と伸銅品事業のみを表示しておりますが、合計はその他を含む連結合計であるため、一致していません。

バルブ事業 国内売上高(市場別)

前年同期比25億79百万円(7.5%)減の316億80百万円。建築設備向けは、第1四半期からは若干持ち直したものの、市中在庫の積み上がりが継続し、販売量が減少。工業用バルブは、前期と同水準を維持。水市場向けは、好調を維持。半導体製造装置向けは、期初からの低迷が継続。消費税増税による仮需は発生せず。新基幹システム稼働による影響もあった。

単位(億円)

	2018年度 2Q	1Q	2Q	2019年度 2Q	対前年	
					増減額	増減率
国内 合計	343	151	166	317	▲26	▲8%
建築設備	146	65	68	133	▲13	▲9%
水関連	35	16	21	38	3	9%
半導体関連	45	12	16	28	▲17	▲38%
機械装置関連	36	18	18	36	—	—%
石油精製・石油化学	33	17	17	34	1	3%
一般化学	14	7	7	14	—	—%
食品・製紙	12	6	6	12	—	—%
ガス・電力	12	5	6	11	▲1	▲8%
大型プロジェクト物件	9	6	5	11	2	22%

注) 1 各市場で採用されるバルブの材質、形状の変化やトレンドを考慮し、2018年度より各市場に集計する製品群の一部を見直ししております。

注) 2 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 海外売上高(エリア別)

前年同期比15億4百万円(7.7%)減の180億80百万円。中国・韓国の半導体製造装置向けは、国内と同じく低迷が継続。北米は代理店からの在庫発注に勢いが無いが、南米(ブラジル)は好調を維持。中国は、米中貿易摩擦の影響を受け、汎用バルブ・工業用バルブともに停滞気味だが、データセンター向けは好調を維持。中東は、大型案件がなくなったことにより、反動減。欧州は、代理店からの在庫発注により好調を維持。アセアンは、各国の選挙は終わったが、中国経済減速の影響もあり、設備投資は回復せず。

単位(億円)

	2018年度 2Q	1Q	2Q	2019年度 2Q	対前年	
					増減額	増減率
海外 合計	196	96	85	181	▲15	▲8%
アセアン・韓国他	64	37	31	68	4	6%
(内、半導体向け)	(14)	(3)	(3)	(6)	▲8	▲57%
中国	36	16	16	32	▲4	▲11%
(内、半導体向け)	(13)	(3)	(3)	(6)	▲7	▲46%
中東	23	2	2	4	▲19	▲83%
アジア計	122	55	49	104	▲18	▲15%
米州(北米、中南米)	55	28	25	53	▲1	▲3%
欧州・その他	19	13	11	24	4	26%

注) 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 営業利益増減要因

単位(百万円)

	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q計画	2019年度 2Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	53,844	51,500	49,760	▲4,083	▲7.6%	▲1,739	▲3.4%
営業利益	7,306	5,400	4,524	▲2,781	▲38.1%	▲875	▲16.2%

(億円)

100

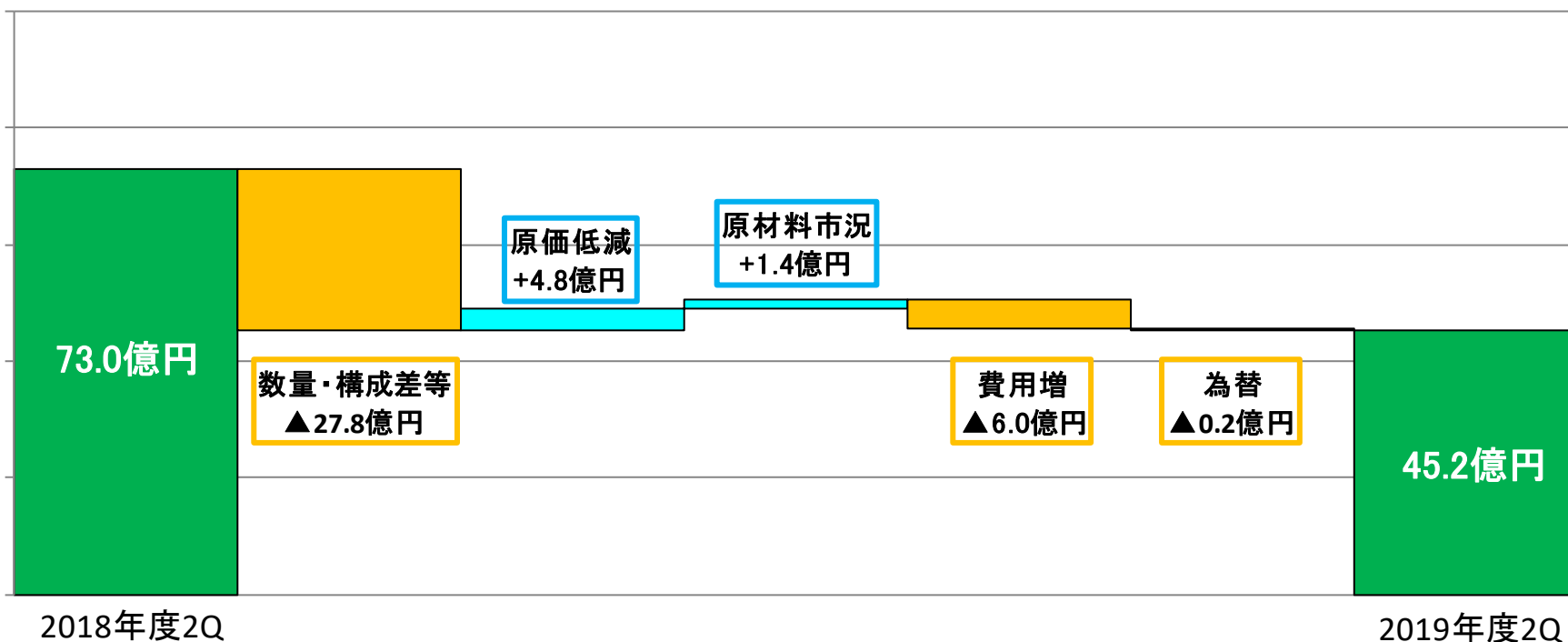
80

60

40

20

0



伸銅品事業の概要

■売上高について

売価に影響を与える原材料相場は、上期を通じて下落。売上高は、前年同期比15億円(12.3%)減の107億37百万円。

■営業利益について

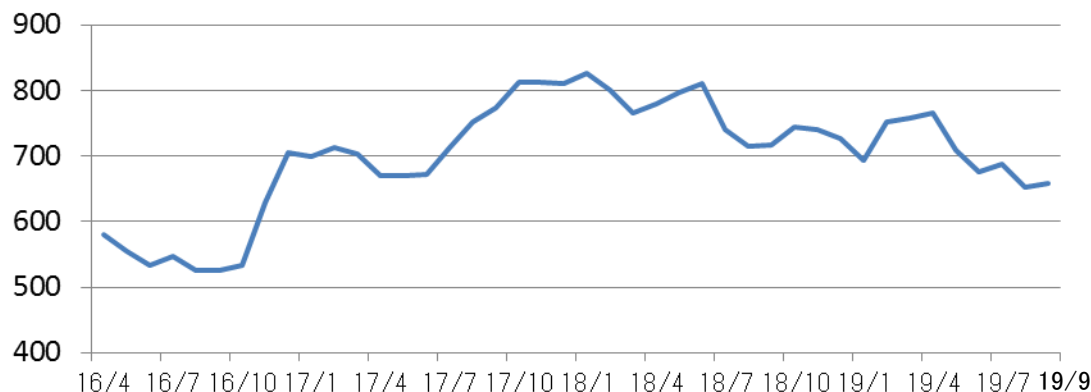
原材料相場変動の影響を受け、営業利益は前年同期比1億19百万円(62.1%)減の72百万円。

単位(百万円)

	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q計画	2019年度 2Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	12,237	11,800	10,737	▲1,500	▲12.3%	▲1,062	▲9.0%
営業利益	191	200	72	▲119	▲62.1%	▲127	▲63.7%
電気銅建値: 円/トン	760,000	750,000	692,000				

(千円/ton)

電気銅建値(2016年4月～2019年9月)



黄銅棒とその加工品

その他の概要

■売上高について

売上高は、サービスエリアの利用客の増加等により、前年同期比2百万円(0.1%)増の17億1百万円。

■営業利益について

営業利益は、前年同期比28百万円減の91百万円。

単位(百万円)

	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q計画	2019年度 2Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	1,698	1,700	1,701	2	0.1%	1	0.1%
営業利益	120	100	91	▲28	▲23.9%	▲8	▲8.5%



長野県諏訪市のホテル紅や

連結営業外・特別損益の状況

単位(百万円)

	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績	増減額	主な増減内訳
営業利益	5,813	2,816	▲2,997	
■営業外収益	362	359	▲3	
■営業外費用	387	442	55	
経常利益	5,788	2,733	▲3,055	
■特別利益	3	340	337	投資有価証券売却益(0→331)
■特別損失	77	81	4	
税金等調整前当期純利益	5,714	2,992	▲2,722	
法人税等	1,746	912	▲833	
当期純利益	3,968	2,079	▲1,888	
非支配株主に帰属する当期純利益	41	46	4	
親会社株主に帰属する当期純利益	3,926	2,033	▲1,893	

バランスシートの状況

会計基準の変更（IFRS第16号）（海外グループ会社のリース取引について、リース資産とリース債務をB/Sに計上）、設備投資により有形固定資産が増加したほか、マレーシアUnimech社の株式取得により投資有価証券が増加したが、現金及び預金の減少や売上債権の減少により資産合計は減少。

■流動資産：現金及び預金の減少 27億8百万円

■固定資産：有形固定資産の増加 24億75百万円 無形固定資産の減少 8億97百万円

投資有価証券の増加 10億29百万円

■有利子負債残高は、347億94百万円（純有利子負債 238億42百万円）、自己資本比率58.2%（19/3末 57.4%）

単位(百万円)

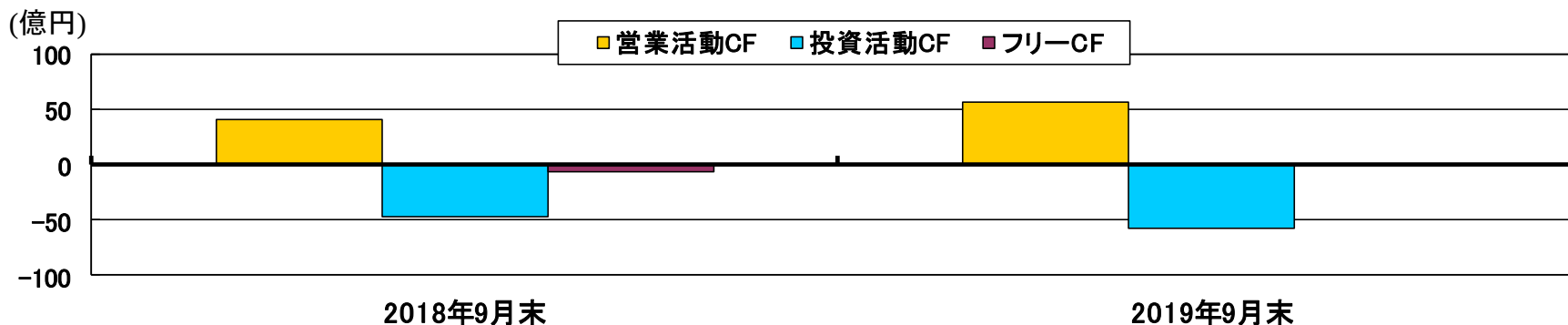
資産の部	2019年 3月末	2019年 9月末	増減額	負債の部	2019年 3月末	2019年 9月末	増減額
流動資産	71,226	63,409	▲7,817	流動負債	22,227	17,280	▲4,946
固定資産	60,430	63,096	2,666	固定負債	32,600	34,288	1,687
有形固定資産	41,677	44,152	2,475	負債合計	54,827	51,568	▲3,258
無形固定資産	9,420	8,522	▲897				
投資等	9,332	10,421	1,088	純資産合計	76,829	74,936	▲1,892
資産合計	131,657	126,505	▲5,151	負債・純資産 合計	131,657	126,505	▲5,151

キャッシュ・フローの状況

- 営業活動CF: 税金等調整前四半期純利益29億92百万円、減価償却費30億85百万円。法人税等の支払額15億59百万円はあったが、56億68百万円の資金の増加。
- 投資活動CF: 有形固定資産の取得による支出43億65百万円、マレーシアUnimech社の株式取得等による投資有価証券の取得による支出17億68百万円により、57億13百万円の資金の減少。
- 財務活動CF: 長短期借入金の調達及び返済はあったが、配当金の支払11億46百万円、自己株式の取得19億84百万円等により、24億46百万円の資金の減少。

単位(百万円)

	2018年9月末	2019年9月末	増減額	増減率
営業活動CF	4,067	5,668	1,601	39.4%
投資活動CF	▲4,757	▲5,713	▲956	—
フリーCF	▲690	▲44	645	—
財務活動CF	▲6,541	▲2,446	4,094	—
現金等期末残高	14,613	10,193	▲4,419	▲30.2%



2019年度第2四半期の主な経営指標

単位(百万円)

	連結	
	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績
売上高	67,781	62,199
営業利益	5,813	2,816
経常利益	5,788	2,733
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,926	2,033
海外売上高比率	29.4%	29.5%
有利子負債	34,671	34,794
自己資本比率	57.0%	58.2%
BPS	793.25円	795.20円
EPS	40.49円	21.75円

1 2019年度第2四半期決算の概要

2 2019年度計画

3 最近のトピックス

2019年度 下期・通期計画

単位(百万円)

	2018年度			2019年度		
	1Q～2Q (上期実績)	3Q～4Q (下期実績)	通期	① 1Q～2Q (上期実績)	②(③-①) 3Q～4Q 下期計画	③ 10/30修正 通期計画
売上高	67,781	68,856	136,637	62,199	61,800	124,000
営業利益 (率)	5,813	5,900	11,713 (8.6%)	2,816	3,683	6,500 (5.2%)
経常利益 (率)	5,788	6,094	11,883 (8.7%)	2,733	3,566	6,300 (5.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	3,926	1,698	5,625 (4.1%)	2,033	2,266	4,300 (3.5%)
ROE	—	—	7.4%	—	—	5.7%
EPS	—	—	58.50円	—	—	46.20円
ドル:対円	108.52		110.37	109.98	109.00	109.00
ユーロ:対円	130.66		130.00	124.07	120.00	120.00
電気銅建値:円/トン	760,000	—	748,000	692,000	660,000	660,000

<ご参考>

対:当初計画

▲9,000

▲3,500

▲3,400

▲2,100

セグメント別 2019年度 下期・通期計画

単位(百万円)

売上高	2018年度			2019年度		
	1Q~2Q (上期実績)	3Q~4Q (下期実績)	通期	① 1Q~2Q (上期実績)	②(③-①) 3Q~4Q 下期計画	③ 10/30修正 通期計画
バルブ事業	53,844	56,124	109,969	49,760	50,439	100,200
伸銅品事業	12,237	11,405	23,643	10,737	10,162	20,900
その他	1,698	1,326	3,025	1,701	1,198	2,900
計	67,781	68,856	136,637	62,199	61,800	124,000

<ご参考>

対:当初計画

▲5,800

▲3,100

▲100

▲9,000

営業利益	2018年度			2019年度		
	1Q~2Q (上期実績)	3Q~4Q (下期実績)	通期	① 1Q~2Q (上期実績)	②(③-①) 3Q~4Q 下期計画	③ 10/30修正 通期計画
バルブ事業	7,306	7,632	14,938	4,524	5,675	10,200
伸銅品事業	191	95	287	72	127	200
その他	120	▲30	90	91	▲91	0
調整額	▲1,804	▲1,797	▲3,602	▲1,872	▲2,027	▲3,900
計	5,813	5,900	11,713	2,816	3,683	6,500

▲3,300

▲300

▲50

+150

▲3,500

2019年度3Q以降の見通し・施策

バルブ事業

■国内

- ・ 建築設備向けは、市中在庫の調整による回復を見込む。
- ・ 水市場(上下水道向け)は、東京都向けの回復、価格改定効果等で好調を維持。
- ・ 半導体製造装置向けは、今期中の回復は厳しい状況となる。日韓関係の悪化の影響も懸念材料。
- ・ 工業用バルブ市場は、米中貿易摩擦の影響はあるが、案件は複数あり、受注に注力。
- ・ 新基幹業務システム稼働による初期トラブルは、解消に向かう。

■海外

- ・ 北米市場は、大手代理店が在庫を削減する方向であり、苦しい状況。新規代理店向けの拡販に注力する。一方、南米市場(ブラジル)は需要が回復し、好調が継続。
- ・ 欧州市場は、大手代理店が在庫を積み増す動きがあり、受注が好調だが、スペイン子会社はOil&Gas向けで苦しい状況が続く。
- ・ アセアンは停滞。各国の選挙は終わったが、設備投資が回復せず、主力のタイ・インドネシアで低迷。マレーシアは、Unimechとの提携効果を出していく。ベトナムは、製造業の中国からの工場移転に伴う需要を期待。
- ・ 中国は、汎用バルブ・工業用バルブとも米中貿易摩擦の影響が大きい、5G需要等もあり、データセンター向けは好調が継続。
- ・ 半導体製造装置向けは、国内と同じく、低迷が継続。特に韓国市場が厳しい。

2019年度計画の主な経営指標

単位(百万円)

	連結	
	2018年度 実績	2019年度 計画
売上高	136,637	124,000
営業利益	11,713	6,500
経常利益	11,883	6,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,625	4,300
海外売上高比率	30.3%	30.0%
有利子負債	33,457	36,500
ROE	7.4%	5.7%
自己資本比率	57.4%	57.0%
BPS	793.74円	818.17円
EPS	58.50円	46.20円

1 2019年度第2四半期決算の概要

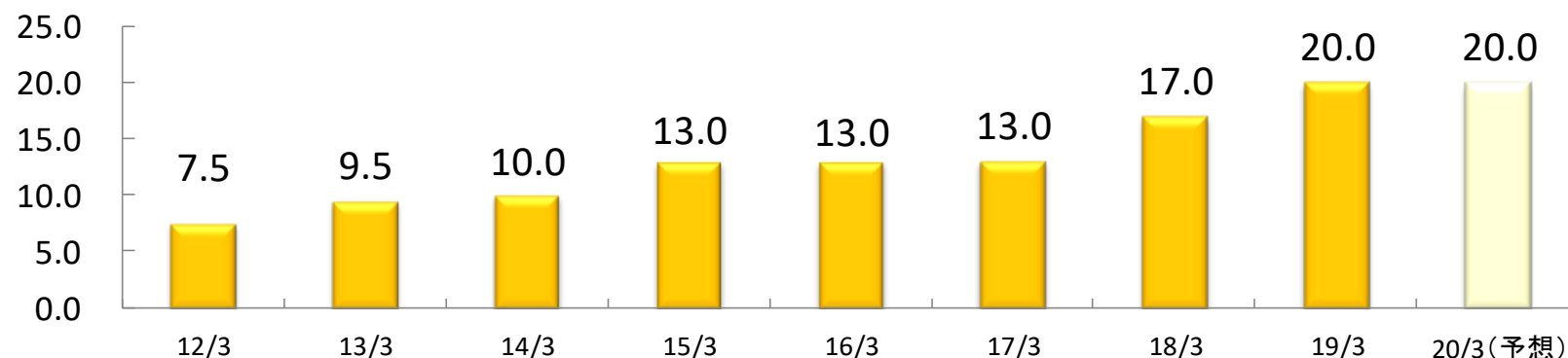
2 2019年度計画

3 最近のトピックス

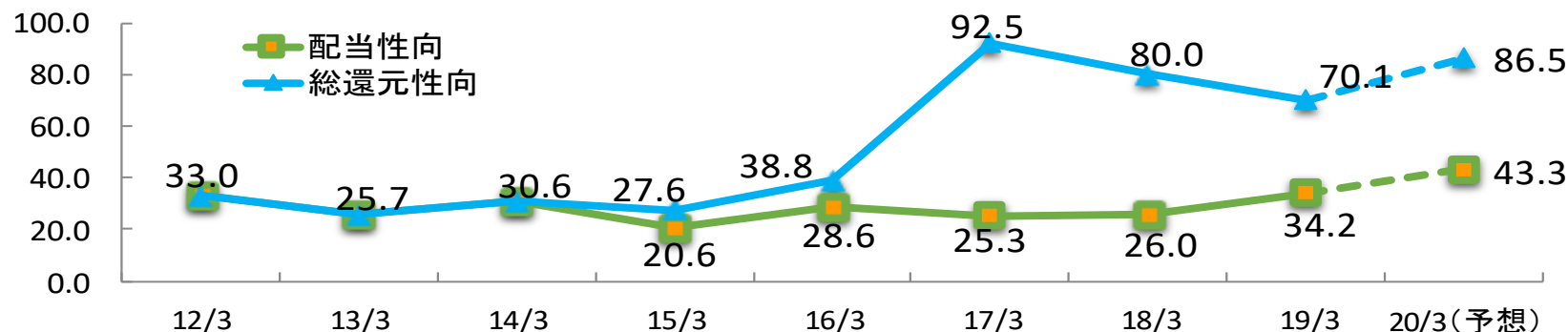
株主還元方針

第4期中期経営計画において、株主の皆様への配当による利益還元のさらなる充実のため、従来の親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準とすることに変更。この方針に基づいて算定される配当額は、1株当たり年間17円となるが、配当の継続性、安定性を考慮し、前年度と同額の1株当たり年間20円(予想)とする。この場合の連結配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の43.3%。

<年間配当金推移>



<配当性向、総還元性向推移>



マレーシアUnimech社と 資本業務提携契約を締結

マレーシアの大手バルブ製造・販売メーカー及び販売代理店であるUnimech Group Berhad(マレーシア証券取引所上場、以下、Unimech)と資本業務提携契約を締結し、発行済株式総数の25.1%を取得。

キッツは、第4期中期経営計画で「アジア地域のミドルクラス(ボリューム)ゾーンへの本格参入」を重点目標の一つに掲げている。これまではKITZ及びTOYOブランドの販売はハイエンドに留まっていた。Unimechは、アセアン・中国地域を中心に幅広い販売網・調達力を持っており、ARITAブランド製品を中心に、特にパーム油など軽工業向けに強みを持つ。

キッツとUnimechとの間で資本関係を構築し、キッツグループの技術力、Unimechの販売力及び両社のブランド力を融合し、また、互いの経営資源を有効に補完し合うことで、製品を使用されるお客様の利便性をより一層向上させることができると考え、資本業務提携に至った。



Unimech Group Berhad

所在地	マレーシア ペナン島
設立	1996年10月
資本金	107百万リングット(約27億8百万円)
事業内容	産業用バルブ、パイプ、継手等の流体制御機器、燃焼器、計器、ポンプの仕入・製造・販売
業績(2018年度)	売上高:68億73百万円

KITZ Corporation of Taiwan

ロストワックス精密鋳物工場が竣工

KITZ Corporation of Taiwan(以下、KCT)の、ロストワックス(※1)精密鋳物工場である屏東工場(ピントン工場)が竣工。KCTとしては5つ目の工場となる。

2003年、KCTは中国の江蘇省昆山市にKITZ Corporation of Kunshan(以下、KCK)を設立。KCKはステンレスの精密鋳造鋳物を自社で使用するほか、グループ会社にも供給しているが、生産能力が限界となっており、また、中国政府機関の安全、環境に関する規制が厳しくなっている。

精密鋳造鋳物の生産がKCK1社に集中することによるリスクの分散と技術の伝承、また、KCTが自社生産することによる生産L/T(リードタイム)短縮及び在庫低減を目的として、新工場を建設した。



工場全景

※1 ロストワックス : 蠟(ワックス)を利用した鋳造方法。蠟で原型を作り、周りを鋳砂や石膏で覆い固め、加熱により中の蠟を溶かし出して除去することによってできた空洞に溶かした金属を流し込むと原型と同じ形をした鋳物ができあがる。

株主優待制度を拡充

株主様との関係をより一層大切にしていくため、当社株式を100株以上保有されている株主様から株主優待制度ご利用いただけるよう、制度を拡充した。(2020年3月末より)

グループ会社優待券		
権利確定日		3月31日
保有株式数	変更前	1,000株以上
	変更後	100株以上
優待内容		・浄水器本体及び交換用カートリッジの割引販売 ・ホテル紅や 宿泊割引券 ・稀石の癒(ホテル紅や別館の岩盤浴等の温浴施設)利用割引券 ・北澤美術館 招待券

※1,000株以上保有されている株主様への株主優待の内容(下記)については、変更なし。

オリジナルクオカード、北澤美術館カレンダー (権利確定日 3月31日)

長期保有株主優待 (権利確定日 3月31日)

新規株主様への優待 (権利確定日 9月30日)